

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

## 研究進捗状況報告書の概要

### 1 研究プロジェクト

学校法人名	東成学園	大学名	昭和音楽大学
研究プロジェクト名	バレエ情報センター機能の構築		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

### 2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本プロジェクトの目的はバレエに関わる資料、情報等を昭和音楽大学バレエ研究所で一元的に保存・管理・公開し、国内有数のバレエ情報の拠点を構築することで、日本におけるバレエ研究とバレエ界の発展に資することにある。

日本では民間団体がバレエ公演を開催することが多く、資金や人材の不足等から、公演資料の保管や整理は適切になされていないことがほとんどであり、バレエに特化した中心的なアーカイブは不在である。また研究に不可欠な基礎データも乏しく、研究発展の大きな障害となっている。

昭和音楽大学バレエ研究所は日本で唯一の大学付属バレエ研究所であり、バレエ公演プログラムや書籍等、日本バレエ史における資料を有し、またバレエ研究に必要な基礎データ等の収集を行った実績がある。本研究プロジェクトを通じて、バレエ関連資料を整理・拡充し、公開に必要な準備を整え、また研究に不可欠な基礎データを収集する。加えていつでも、どこからでもアクセスが可能なデジタルアーカイブを構築する。最終年度の終わりには、「昭和音楽大学バレエ研究所バレエアーカイブ(仮名)」と「昭和音楽大学バレエデジタルアーカイブ(仮名)」を通じて、専門知識を持った研究者によって収集・整理されたバレエ資料を広く公開し、バレエ研究所に国内有数のバレエ研究拠点を構築することを目指す。

### 3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本プロジェクトは3つのグループ(バレエ情報・資料整理グループ、デジタルアーカイブグループ、バレエ環境調査グループ)に分かれ、バレエ資料やバレエに関わるデータに関して多角的に調査・分析を行い、実践的な研究を行っている。

#### (1) バレエ情報・資料整理グループ

バレエに関わる書籍、公演プログラム、雑誌、視聴覚資料、その他資料を、専門的知識をもって、一元的に収集・整理するグループである。すでに約1万冊のバレエ公演パンフレットの確認、整理を行い、管理番号を配し、未登録のものに関しては新たに管理システムへの登録を行った。また必要と思われる資料を洗い出し、大幅な補充を行った。また日本のバレエ団や海外バレエ団招へい元など関係組織との提携を結び、継続的に公演パンフレットを収集する体制を作った。また書籍や視聴覚資料等についても洗い出しを行い、新規に購入が必要と思われる資料を確認、収集し、コレクションを強化した。

#### (2) デジタルアーカイブグループ

国立情報学研究所と共同で、バレエデジタルアーカイブの設計、構築を行っている。プロトタイプは平成29年度に完成している。平成29年8月にはデジタルアーカイブのプロトタイプ等を展示内容に含めた企画展(『日本におけるバランシン』)を新国立劇場オペラパレスで開催し、研究成果を展示した。研究者、一般の愛好家等を含めた来場者は約1000人である。

#### (3) バレエ環境調査グループ

全国のバレエ教室数、バレエ学習者数等、バレエに関わる全国的な全数調査などを行い、研究の基礎データを提供することが目的のグループである。バレエ教室数、バレエ学習者数、日本におけるバレエコンクール数やバレエコンクール参加者数に関する調査は、平成29年度までで完了している。調査結果はすでに学会で発表されたほか、新聞やテレビ等を含め様々なメディアでも頻りに利用されている。今後は海外バレエコンクールに関する調査研究を予定している。



法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

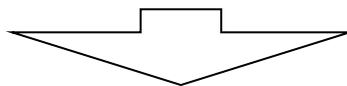
溝上 智恵子	筑波大学図書館情報メディア研究科・教授	芸術資料のアーカイヴ化	アーカイヴ化・公開、貴重資料の保存・管理
(共同研究機関等)			

## &lt;研究者の変更状況(研究代表者を含む)&gt;

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 2 月 15 日)



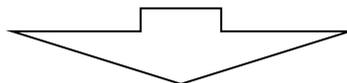
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	国立情報学研究所・教授	高野 明彦	バレエデジタルアーカイヴの構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
バレエを中心とする文化芸術政策	昭和音楽大学教授	根木 昭	アーカイヴ化・公開
舞台芸術アーカイヴのノウハウの集積	オペラ研究所・教授	石田 麻子	アーカイヴ化・公開

(変更の時期:平成 28 年 6 月 1 日)



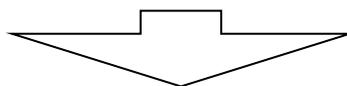
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
舞台芸術アーカイヴのノウハウの集積	オペラ研究所所長	石田 麻子	アーカイヴ化・公開

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
国内外におけるバレエ資料収集、整理	公益社団法人日本バレエ協会元会長	薄井 憲二	研究アドバイザー、アーカイヴ化・公開

(変更の時期:平成 30 年 2 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

平成28年5月に昭和音楽大学根木昭教授が死去されたために変更を申請した。申請届は提出済である。また平成29年12月に薄井憲二氏が死去されたために、変更を申請した。申請届は提出済である。

また新たに研究者として、平成28年2月に国立情報学研究所・高野明彦教授が加わった。申請届は提出済である。高野教授はデジタルアーカイヴ分野の第一人者であり、本事業においては主にデジタルアーカイヴ構築を担当する。デジタルアーカイヴ化が進んでいないバレエや舞台芸術では、アーカイヴ化へのノウハウも乏しい。高野教授が研究に参加することで、充実したデジタルアーカイヴの構築が可能となる。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

## 11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

### (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

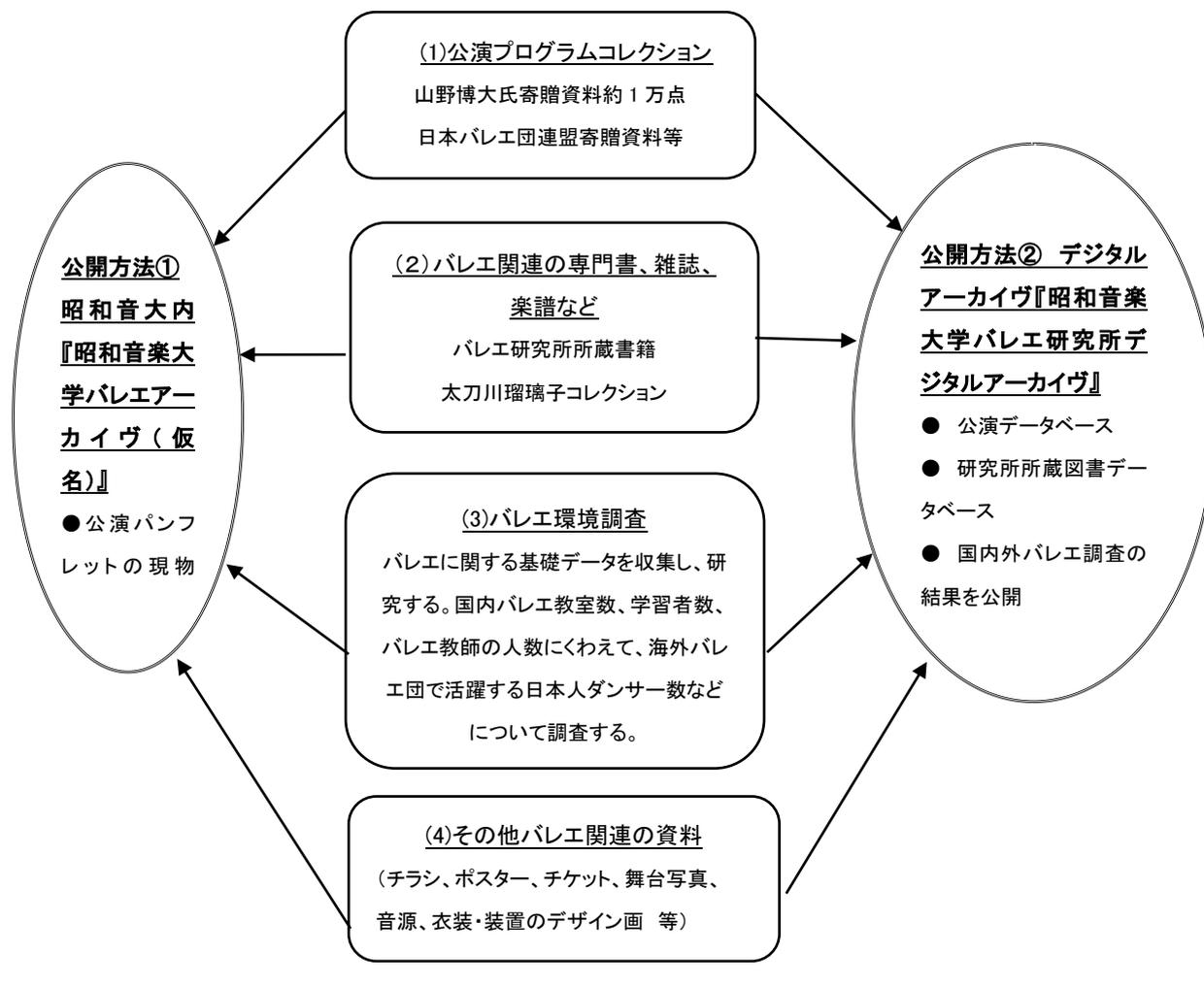
#### プロジェクトの目的・意義

日本のバレエ研究においては次の2点が問題として指摘されてきた。すなわち資料拠点の不在と、基礎データの不足である。第1の問題に関しては、日本においては民間がバレエの発展の大部分を担ってきたこともあり、集約的にバレエ関連の情報、資料を管理する組織が存在しなかった。その結果、バレエ関連の資料や公演プログラムは小規模に分散されて関連団体に保管されているか、または未整理のまま個人宅等に保存されているのが現状である。また第2の問題点としては、バレエ学習者総数等の基礎データが不在で、研究を進める際の障害となるというものである。基礎データとなる全数調査等は費用と時間がかかるうえ、専門知識が必要となるため、専門研究機関以外では研究が難しい。

昭和音楽大学バレエ研究所は日本で唯一の、大学付属バレエ研究機関である。またバレエに関する資料も所有しており、バレエに関わる調査・研究を行った実績もある。本事業を通じてバレエに関する資料や基礎データ等を一元的に収集・公開することで、バレエ情報センターを設立し、日本におけるバレエ研究の拠点を形成することを目指す。これらを通じて、バレエ研究だけでなく、バレエ公演の現場に有用となるアーカイヴを構築し、日本バレエ界発展に資することが目的である。

#### 計画の概要

本事業の目的は、バレエに関する資料や情報をバレエ研究所に集積し、専門知識を有する研究所員が整理したうえで、広く公開することで、日本におけるバレエ研究発展の一助とすることである。収集する資料や情報は以下の4種類に分かれる。すなわち(1)公演プログラムコレクション、(2)バレエ関連書籍等、(3)バレエ環境調査、(4)その他関連資料である。公開方法は2通りである。第1に昭和音楽大学バレエ研究所内に①「昭和音楽大学バレエアーカイヴ」を構築し、公演パンフレット現物等を公開する。第2に②「昭和音楽大学バレエ研究所デジタルアーカイヴ」を構築し、インターネットを通じて、いつでもどこからでもバレエ関連の情報にアクセスできる環境を整えることである。



法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

## (2) 研究組織

本プロジェクトは研究員を3つの研究グループに分け、多角的に研究を行っている。

バレエ研究所では調査研究を行うほか、運営事務と研究のとりまとめを行っている。小山久美バレエ研究所所長は研究統括として研究員会議の議長を務めるほか、各グループの報告を受けて研究の最終的な決定を行う。グループ同士も研究過程や研究成果を共有し、研究の効率化を図っている。複数のグループに所属する研究員を置くことで、研究成果の共有している。各グループには運営担当者(下線で表示)を置き、研究の組織化を図っている。

### 1. バレエ情報・資料整理グループ(尾崎、石田、溝上、大原、高橋、松澤)

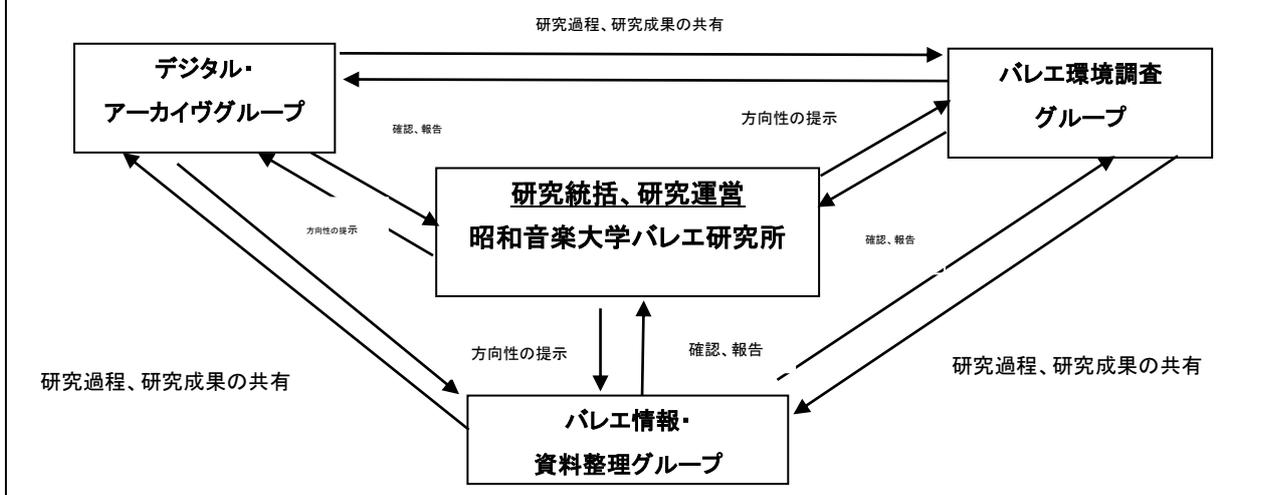
バレエ公演プログラム、バレエに関する書籍、視聴覚資料、バレエ関連の専門誌等を収集・整理し、公開することを目的とするグループである。

### 2. デジタルアーカイブグループ(高野、小山、尾崎)

特にデジタルアーカイブの構築、運営を目的としたグループである。最終年度にはデジタルアーカイブを完成させ、研究者だけでなく一般にも公開することを目的としている。

### 3. バレエ環境調査グループ(小山、海野、岩部、小嵐、松澤、小山)

バレエに関する基礎データを収集・分析し、公開することを目的としたグループである。



## (3) 研究施設・設備等

### 昭和音楽大学北校舎 2階 バレエ研究所 (アーカイブ、調査研究用スペース)

昭和音楽大学北校舎 2階に位置する、49 平米の部屋を研究施設として使用している。研究活動、データの収集・管理、資料の収集や保管・管理、またプロジェクトのとりまとめを行っている。現在、研究員 1 名が週 3 日、嘱託職員 1 名が週 5 日稼働している。同研究所内にはバレエ公演パンフレット約 10,000 点、バレエ・舞台芸術関連書籍約 2,000 点、視聴覚資料約 500 点、デジタルアーカイブ構築に必要な高性能スキャナー 2 台、資料保存専用の可動棚、資料保存箱、湿度管理のための除湿器、オーラルヒストリー記録用の高性能ビデオカメラ等を備えている。

## (4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

### < 現在までの進捗状況及び達成度 >

#### 1. バレエ情報・資料整理グループ

本グループは、バレエ研究の基盤となるバレエ公演プログラム、関連書籍、視聴覚資料を収集・整理し、公開することを目的としている。専門家の知識をもって、体系的に収集・整理したうえで、最終年度には公開することを計画している。

##### 1-1 バレエ関連書籍・視聴覚資料の整理・分類

バレエ研究所に所蔵する書籍、専門誌、視聴資料の詳細を整理・確認した上で、必要な資料を洗い出した。必要と判断された資料は随時購入し、コレクションの強化を図った。現在、バレエ研究所はバレエ関連書籍を約 2,000 点、バレエ関連の視聴覚資料を約 500 点所蔵している。バレエ関連の書籍や視聴覚資料としては、国内でも屈指の所蔵数である。\*1 またバレエ書籍や視聴覚資料は細かい分類が定まっていないため、分類はバレエ研究所で作らざるをえない。利用しやすい分類は何かのにかに関して、現在、議論を重ねている。

##### 1-2 バレエ公演プログラムの整理

バレエ研究所は舞踊評論家山野博大氏の公演プログラムコレクション約 10,000 点をはじめ、新聞記者齊藤富夫氏コレクションなど、さまざまな公演プログラムコレクションの寄贈を受け入れ、保存・管理を行っている。1940 年代から現在に至るまでの公演プログラムを保管し、整理している。バレエ公演プログラムコレクションとしては日本国内で随一である。プログラムは年代順に整理し、保存箱に入れ、管理をしている。また公演当日に配布されるキャスト表やチケット半券、またチラシ等に関しても、公演に付随する貴重資料であるため、プログラムと共に保管する体制を敷いた。

##### 1-3 貴重コレクションの受け入れ

日本バレエ史に名を残すアーティストや関係者らから貴重資料の寄贈を継続的に受けている。2017 年にはスターダンサーズ・バレエ団創設者 太刀川瑠璃子氏が集めたプロマイド、新聞スクラップ、書籍等を受け入れ、整理を行った。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

#### 1-4 資料管理データベースの作成

ExcelとAccessで資料詳細のデータ入力を行い、資料管理データベースを作成した。約5,000件の資料データを入力済である。データベースには資料タイトルや出版社、出版年などだけでなく、振付家名、作品の版やダンサー名など、詳細情報も入力した。これによって資料の検索が簡易になり、効率よく資料を探すことが可能となった。

#### 1-5 関係機関との提携強化

資料の収集能力を強化するため、日本バレエ団連盟加盟の国内バレエ団、また海外バレエ団の招へい元と提携関係を結び、バレエ公演プログラム寄贈の提携を行った。また国内の主要劇場や資料室等と、資料の公演プログラムの所蔵詳細の情報共有、また複数保管しているパンフレットに関しては交換等を行うなど、関係を強化する話し合いを進めた。

#### 1-6 保存環境の整備

新たに資料保存用の専用稼働棚を購入し、バレエ研究所内に設置した。また必要な資料が適切に保存され、かつ見つけやすくなるよう、研究所の棚等の配置見直しを行い、配置を大幅に入れ替えた。専用の資料保存箱にて、管理番号を付与して管理することとした。年代順で整理を行い、検索がしやすいように再整理を行った。

#### 1-7 国内外ダンスアーカイブに関する調査・研究

世界各国、国内のダンスアーカイブに関して調査・研究を行い、プロジェクトの方針に反映させている。関連学会やシンポジウムなどにも出席し、情報収集や更新にも努めている。平成28年10月には世界でもっとも有名なダンスアーカイブとされているニューヨーク公共図書館ジェローム・ロビンズ・ダンス・アーカイブ(米国)を訪問し、ダンスキュレーターと、ダンスアーカイブをめぐる問題点やダンスアーカイブの未来などについて意見交換を行った。

### 2. デジタルアーカイブグループ

本グループはバレエ情報のデジタルアーカイブを構築し、公開することを目的としている。以下のとおり研究を行い、また企画展示を行った。

#### 2-1 「昭和音楽大学バレエ研究所デジタルアーカイブ(仮名)」プロトタイプ的设计、完成

バレエ資料やバレエ情報を集約したデジタルアーカイブを最終年度に完成・公開するために、その準備としてプロトタイプ的设计を行った。プロトタイプでは、上演回数の年代による変遷を可視化できる上演回数グラフ、公演の全国的な分布を視覚的に確認できるマップ、またどの年代にどんな作品が頻繁に上演されたのかを色別で確認できるヒートマップの作成などを行った。\*2 これらをたたき台として、最終年度にはデジタルアーカイブを完成させ、公開する予定である。

#### 2-2 データの入力作業(メタデータの拡充)

公演情報の入力を行い、公演データベースの充実を図った。あらたに1,500件以上の公演について詳細な公演情報(イベント名、ダンサー名、主催者名、作品情報、関係者名等)を入力し、メタデータの質の向上と維持を行った。また全国にある劇場の電子地図における位置情報など、公演にまつわる情報の入力を行った。

#### 2-3 データの統合作業(マスターデータの作成)

現在、作品名やダンサーの表記ゆれ等によって、検索しても目的のデータが検索できない問題がある。マスターデータを作成し、データの統一を図ることで、検索がスムーズにいくように作業を行っている。

#### 2-4 オーラルヒストリーの収集

日本における著名なバレエ関係者に話を聞き、それを保存することで、オーラルヒストリーの収集を行っている。高精度ビデオカメラを使って動画・音声を保存するほか、テキストでも保存している。2017年にはニューヨーク・シティ・バレエ団元プリンシパル ベン・ヒューズ氏に、日本におけるバレエ作品の振付指導等に関してインタビューを行い、字幕をつけたうえで、動画として保存した。最終年度にはデジタルアーカイブの一部として公開する予定である。

#### 2-5 バレエ資料のデジタル化

希少性の高いバレエ資料に関して、高精度スキャナー等を用いて、デジタル化を進めている。1940年代、1950年代の公演パンフレットやチラシ、チケット等を中心に、デジタル化を行っている。今後もデジタル化を行うことで、資料のデジタル保存を積極的に行う。またスキャン作業を研究所内で行うことで、バレエ関連資料のデジタル化についてノウハウを蓄積している。

#### 2-6 企画展『日本におけるバランシン』(日時:平成29年8月5日・6日、場所:新国立劇場オペラパレス)の開催\*3

新国立劇場オペラパレス(東京・初台)のホワイエにて、20世紀でもっとも有名な振付家のひとりであるジョージ・バランシンに焦点を当て、日本におけるバランシン作品の上演史について企画展を開催した。デジタルアーカイブのプロトタイプ、本事業を通じて作成が可能となった上演史年表のパネル、オーラルヒストリー上映、等の展示を行った。来場者は2日間でのべ約1000人であり、研究者や愛好家でにぎわった。来場者からはソーシャルメディア等を通じて好意的なコメントが数多く寄せられた。

#### 2-7 パフォーミングアーツ関連のデジタルアーカイブに関する調査・研究

パフォーミングアーツ関連のデジタルアーカイブ全般に関して調査・研究を行っている。デジタルアーカイブ学会研究大会や勉強会に参加(平成29年7月、9月、平成30年3月)し、デジタルアーカイブの最新の動向を調査している。また国内外のデジタルアーカイブを保有している舞台芸術関連の研究機関に働きかけ、積極的に情報交換などを行っている。

### 3. バレエ環境調査グループ

#### 3-1 バレエ教育に関する全国調査2016(全数調査)\*4

日本におけるバレエ学習者数・バレエ教室数・レッスン内容等の全数調査を2016年に行い、完了した。日本国内のバレエ教育機関の情報を網羅的に収集し、バレエ教室データベースを構築し、すでにある情報に関しては確認と更新を行った。その結果、割り出された4,793件のバレエ教育機関には、調査票を送付した。回収率は32.5%だった。回収した調査票を集計・分析したのち、全国のバレエ学習者数、バレエ教師数、女子・男子の学習者数などがわかった。また本研究所は同様の調

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

査を 2011 年 9 月に行っているため、経過を分析することで、日本におけるバレエ教育の変化を調査することができた。

### 3-2 全国バレエコンクール調査 2016(全数調査) \* 5

日本で初めて、バレエコンクールを対象とした全数調査を実施し、その研究成果を公開した。全国のバレエコンクールに関する情報を網羅的に収集し、バレエコンクールデータベースを構築した。それをもとに 2015 年に予備調査を行い、情報を精査したのち、2016 年に本調査を行った。アンケートを送付し、回収率は 42%だった。本研究を通じて全国バレエコンクール総数、バレエコンクール応募者総数が、日本で初めて明らかとなった。

### 3-3 海外バレエコンクールに関する調査

海外におけるバレエコンクールの実態について、調査を行う。平成 29 年は方向性の検討を行い、また予備調査を行った。海外におけるバレエコンクールが、どの程度までダンサーのキャリアと関連があるのかの調査である。平成 30 年度、平成 31 年度に本調査を行い、公開する予定である。

### 3-4 研究成果の公開(インターネット、パンフレット)

3-1、3-2 の研究成果はすでに昭和音楽大学バレエ研究所ウェブサイト、昭和音楽大学バレエ研究所 Twitter アカウント、パンフレットを通じて、広く公開を行っている。本調査を通じて得られたデータは新聞、テレビなどのメディアでも頻りに利用されている\*。

## <特に優れた研究成果>

- 20 世紀で最も偉大な振付家のひとりであるジョージ・バランシン作品の、日本における作品上演史に焦点を当てた企画展『日本におけるバランシン』(会場:新国立劇場オペラパレス) \* 3 を 2017 年 8 月に開催した。本研究を通じて構築したデジタルアーカイヴのプロトタイプ、オーラルヒストリーコレクション、上演史のパネル展示、公演パンフレット現物等の展示を行った。一般の観客、研究者、批評家、関係者等を含むのべ約 1,000 人が訪れ、展示を鑑賞した。来場者からは「おもしろい企画展だった」、「同様の展示をまた開催して欲しい」等の好意的な声が多数寄せられた。
- 国立情報学研究所との共同研究により、デジタルアーカイヴのプロトタイプが完成した。パフォーマンスアーツに関わる資料のデジタルアーカイヴ化は、他分野と比較して世界的に見ても遅れている。デジタルアーカイヴ化のノウハウが乏しい舞台芸術界において、情報学の専門機関と研究を行う意義は大きい。最終年度の公開に向け、プロトタイプをたたき台として、さらに研究を進めている。
- 「全国バレエコンクール調査 2016」\* 5 は日本で初めての、バレエコンクールを対象とした全数調査であり、本研究を通じてバレエコンクールの総数や参加者総数などが初めて明らかとなった。バレエコンクールはバレエ関係者や研究者だけでなく一般からの関心も高く、その実態の一端が、データを通じて明らかとなった功績は大きい。
- 「バレエ教育に関する全国調査 2016」\* 4 では、同様の調査を 2011 年に行っているため、バレエ学習者数やバレエ教室数等の経過や推移を把握することができた。調査の結果は学術論文としても発表済である。

## <問題点とその克服方法>

- バレエは外来語が多く、定訳がない人名や作品名も多い。よってデジタルアーカイヴのメタデータ管理において、人名や作品名などの表記ゆれが大きな問題となっている。例えば最も有名な振付家のひとり、ジョージ・バランシンの場合でも、バランシン、バランシーン、バランチン、Balanchine など、公演プログラム上では複数の表記が存在する。公演プログラムにおける表記は、それも記録のひとつと考えられるため、そのまま入力することに決定した。しかしデジタルアーカイヴ上で検索の際に表記ゆれが問題となり、目的の単語を網羅的に検索できない場合が多く、課題となっている。よってマスターデータを作り、マスターデータで複数の表記を管理することで、問題の解決を図っている。
- バレエ資料のデジタル化においては、舞台芸術全体のデジタルアーカイヴが立ち遅れているため、ノウハウをまだ蓄積している状況にある。よって効率の面で改善が求められている。どんな資料をどのスキャナーでデジタル化していくのか等の面で手探りの部分も多い。ノウハウの蓄積がある組織との連携を強化する、また同様のアーカイヴを運営する国内外の機関と連携を構築して情報を交換することで、問題の解決に努める。

## <研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

- 本事業を通じて、国内外のダンスや舞台芸術アーカイヴ機関と関係を築くことができた。またさまざまなシンポジウムや学会に積極的に参加し、舞台芸術アーカイヴ関係者と連絡を取るなかで、日本におけるバレエ研究の存在を世界の舞台芸術関係者にアピールすることができた。
- アーカイヴが完成した際には、バレエ資料が有機的に結びつくことで、研究だけでなく教育においても利活用が可能となる。例えば芸術高専や音楽大学授業の一環として、昭和音楽大学バレエデジタルアーカイヴを利用し、日本バレエ史の教育に役立てることが可能である。
- デジタルアーカイヴが完成した際には、日本におけるバレエ公演史を体系的に把握することが可能になるため、他分野の学問領域とバレエ史とを関連づけて研究を行うことが容易となる。例えば日本における海外バレエ団公演の歴史を把握し、それを日本経済史と関連付けて考えることで、経済の動向と海外バレエ団招致公演の関連性等を研究することなどが可能となる。

## <今後の研究方針>

最終年度の「昭和音楽大学バレエアーカイヴ」、「昭和音楽大学バレエデジタルアーカイヴ」一般公開に向けて、以下のとおり研究を行う。当初の計画から大幅な変更はない。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

#### 平成 30 年度(4 年目)

##### 1. バレエ情報・資料整理グループ

- 引き続き資料の収集・整理を行う。特に洋書に関して、必要な資料の洗い出しを行い、重点的に拡充を行う。
- 書籍と視聴覚資料の分類に関して、さらなる検討をしたうえで、決定する。
- 最終年度の一般公開への準備として、試験的な公開を行う。
- 教育現場でのアーカイブ活用を目指す。具体的には昭和音楽大学講義(『バレエ学概論』、『バレエ美学』、『バレエ作品研究』等)において、アーカイブを試験的に利用する。

##### 2. デジタルアーカイブグループ

- 引き続きデータ入力を行い、メタデータの拡充を図る。
- 引き続きマスターデータの作成を行い、データの整理を行う。
- 引き続きオーラルヒストリーの収集を行い、データの拡充を図る。
- プロトタイプを見直したうえで検討し、デジタルアーカイブの完成形を決定する。
- 企画展を開催し、研究成果の一部を公開する。

##### 3. バレエ環境調査グループ

- 海外バレエコンクールの現状に関して調査・研究を行う。

#### 平成 31 年度(5 年目)

##### 1. バレエ情報・資料整理グループ

- コレクションの拡充を図る。
- 書籍、視聴覚資料等の分類を決定する。
- 「昭和音楽大学バレエアーカイブ」を一般に向けて公開する。

##### 2. デジタルアーカイブグループ

- 資料のデジタル化を進める。
- メタデータのさらなる拡充を図る。
- 「昭和音楽大学バレエデジタルアーカイブ」を完成させ、一般に公開する。

##### 3. バレエ環境調査グループ

- 海外バレエコンクールに関する調査・研究を引き続き行う。
- 研究成果をインターネット、また刊行物を通じて公開する。

#### < 今後期待される研究成果 >

##### 1. バレエ情報・資料整理グループ

- 最終年度に「昭和音楽大学バレエアーカイブ」を公開することで、国内でも有数のバレエ資料拠点を形成することができる。広い視野で収集されたバレエ資料を一元的に閲覧できるバレエアーカイブは国内でも限られているため、アーカイブが公開されることで、バレエ研究にとって有用な研究拠点となることが期待される。またこうした資料拠点は、研究者だけでなく、バレエ公演の制作現場でも有用であることが見込まれる。例えば上演作品を選ぶ際に、作品情報の詳細や作品の歴史に関わる資料等が必要なことも多い。すでにアーカイブを「利用したい」という研究者やバレエ制作現場からの声も多く寄せられており、日本バレエ界にとって有用なアーカイブとなることが期待されている。

##### 2. デジタルアーカイブグループ

- デジタルアーカイブが完成した際には、1940年代から現在に至るまでのバレエ公演や上演劇場等に関する情報がいつでも、どこからでもアクセスできるようになる。バレエ研究者、バレエ制作現場、また愛好家にとって便利なシステムであり、裏付けのあるバレエ情報が身近に入手できるようになる。
- バレエのような総合芸術では、公演情報、書誌情報、オーラルヒストリー等、種類の異なるデータや資料が存在する。デジタルアーカイブを通じて、そういった種類の異なる資料を結びつけることが可能となる。
- バレエ研究所は国立情報学研究所とデジタルアーカイブの構築を行っている。デジタルアーカイブがあまり発達していない舞台芸術界においては、こうした試みは世界的にも類を見ない。本デジタルアーカイブが完成した際には、世界のダンス界において、規範のひとつとなるデジタルアーカイブが出来上がることが見込まれる。

##### 3. バレエ環境調査グループ

- バレエ環境調査グループが行う「海外バレエコンクールにおける調査」では、海外有カバレエ団に所属するバレエ団ダンサーを対象として、コンクール受賞者の割合等を調査する予定である。この調査によってバレエコンクールが、ダンサーのキャリアにどんな位置を占めるのかの実態が明らかになる。日本のメディアは、海外の著名バレエコンクールにおいて、日本人受賞者が出た場合に、それを大きく取り上げることが多い。しかしそうしたセンセーショナルな扱いは、バレエの現場の感覚とは異なるものがある。本調査を通じて、海外バレエコンクールとダンサーのキャリアに関しての実態がデータを通じて明らかになり、その成果は多くの人々に有用と考えられる。

#### < 自己評価の実施結果及び対応状況 >

本プロジェクトに対する評価の実施体制は、本学が設置する点検評価委員会による自己点検・自己評価と、外部評価委員による外部評価から構成される。自己点検・自己評価は毎年行っており、以下のURLから見る事ができる。

URL: <http://www.tosei-showa-music.ac.jp/guide/information/check.html>

#### < 外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況 >

本研究は外部 2 名の有識者を評価委員として設置し、平成 30 年 6 月に外部評価を実施する。

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 舞踊 (2) バレエ (3) ダンス  
 (4) アーカイヴ (5) デジタルアーカイヴ (6) 全国調査  
 (7) 教育 (8) 情報学

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

<雑誌論文>

1. 小山久美、海野敏「日本のバレエ教育市場の変化：『バレエ教育に関する全国実態調査』に基づく分析」(査読有)『音楽芸術マネジメント』 vol. 9, pp. 71-81 2017年12月 \*4
2. 海野敏、小山久美「日本のバレエ教育の実態および課題ー第2回『バレエ教育に関する全国調査』に基づく考察」(査読有)『舞踊学』No. 40, pp. 14-25 2018年3月 \*4\*5
3. 小山久美「障害者に対するバレエ・ワークショップにおける効果的な指導方法とは何かー英国フリーフォール・ダンス・カンパニーを例としてー」(査読有)『昭和音楽大学研究紀要』 vol. 35 pp. 24-38、2016年3月
4. 小山久美、平野綾那「日本における障害者のためのバレエ指導の実施向けて：ポストン・バレエ団アダプティブ・ダンスの指導方策及び体制分析より」『音楽芸術マネジメント』 (9) pp. 83-91、2017年
5. 石田麻子、鈴木とも恵「フランスにおける劇場人材育成の現状～エクサン・プロヴァンス音楽祭を例に」(査読有)『音楽芸術運営研究』第8号、2016年3月
6. 鈴木とも恵、石田麻子「イタリアにおける劇場人材育成の現状～マルティーナ・フランカのヴァッレ・ディトリア音楽祭を例に～」(査読有)『音楽芸術運営研究』第8号、2016年3月
7. 石田麻子「日本のオペラ2015」『日本のオペラ年鑑2015』pp. 24-3、2016年12月
8. 石田麻子「日本のオペラ公演2015」『日本のオペラ年鑑2015』pp. 57-73、2016年12月
9. 関鎮京、石田麻子「韓国におけるオペラの受容と創造」日本音楽芸術マネジメント学会『音楽芸術マネジメント』第8号 pp. 23-34、2017年2月
10. 石田麻子、鈴木とも恵「スイスにおける歌劇場人材育成の現状：チューリヒ歌劇場を例に」『音楽芸術運営研究』第10号 pp. 25~35、2017年3月
11. 鈴木とも恵、石田麻子「イタリアにおける劇場人材育成の現状 ミラノ・スカラ座研究所を例に」『音楽芸術運営研究』第9号 pp. 37-48、2017年3月
12. Bin Umino、Asako Soga、Yuho Yazaki、Motoko Hirayama “Choreographic Education for Contemporary Dance Using 3D Motion Data” Abstracts of the International Symposium on Performance Science 2015 pp. 151-152、2015年9月 (査読有)
13. Yuho Yazaki、Asako Soga、Bin Umino、Motoko Hirayama “Automatic Composition by Body-part Motion Synthesis for Supporting Dance Creation” Proc. of International Conference on Cyberworlds 2015 pp. 200-203、2015年10月 (査読有)
14. 矢崎雄帆、曾我麻佐子、海野敏、平山素子「身体部位動作の自動合成システムを用いた現代舞踊の創作支援」(査読有)『NICOGRAPH2015 論文集』8 pages、2015年11月
15. 海野敏、曾我麻佐子、矢崎雄帆、平山素子「モーションデータを用いた舞踊動作の合成原理とその応用：現代舞踊の振付学習における有用性」(査読有)『情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol. 2015, no. 2, pp. 277-282、2015年12月
16. Asako Soga、Bin Umino、Yuho Yazaki、Motoko Hirayama “Body-part Motion Synthesis System and its Evaluation for Discovery Learning of Dance” IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems vol. E99-D, no. 4、2016年4月 (査読有)
17. Asako Soga、Yuho Yazaki、Bin Umino、Motoko Hirayama “Body-part Motion Synthesis System for Contemporary Dance Creation” Proceeding SIGGRAPH '16 ACM SIGGRAPH 2016 Posters Article no. 29、2016年7月 (査読有)
18. 矢崎雄帆、曾我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の創作支援を目的とした動作合成システム：振

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

- 付フレーズの自動生成手法」(査読有)『情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol.2016, no.2, pp.165-170、2016年12月
19. Asako Soga, Yuho Yazaki, Bin Umino, Motoko Hirayama “Automatic Synthesizing System of Choreography for Supporting Contemporary Dance Creation” Proc. of XX Generative Art Conference pp.78-87、2017年12月(査読有)
  20. 海野敏、曾我麻佐子、矢崎雄帆、平山素子「振付シミュレーションシステムを用いた現代舞踊の実演指導」(査読有)『情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』vol.2017, pp.185-190、2017年12月
  21. 矢崎雄帆、曾我麻佐子、海野敏、平山素子「現代舞踊の振付学習における動作合成システムの活用」『情報処理学会研究報告』vol.2018-CH-116, no.17, pp.1-6、2018年1月
  22. 尾崎瑠衣「オーストラリアにおけるバレエ団運営の事例調査」『平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団マネジメントに係る調査・研究、並びにバレエ環境実態調査」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 2016年3月
  23. 尾崎瑠衣「韓国におけるバレエ団の運営実態と助成制度」『平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団マネジメントに係る調査・研究、並びにバレエ環境実態調査」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 2016年3月
  24. 尾崎瑠衣「国際プロダンサー転職支援組織(IOTPD)年次総会参加報告」『平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団マネジメントに係る調査・研究、並びにバレエ環境実態調査」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 2016年3月
  25. 尾崎瑠衣、平野綾那「バレエ団におけるマーケティング戦略」『平成28年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団の環境整備」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 2017年3月
  26. 尾崎瑠衣、平野綾那「調査報告スコットランドにおけるバレエ団運営実態と助成制度」『平成28年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団の環境整備」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 2017年3月
  27. 尾崎瑠衣「調査報告カナダにおけるバレエ団運営の事例調査」『平成29年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「新進バレエダンサー育成及びバレエ団運営の基盤整備及び制作人材育成」報告書』一般社団法人日本バレエ団連盟 2018年3月
  28. 一力雅彦、高野明彦、正村俊之、田中淳、吉田寛、橋元良明「震災3年目の社会情報学」『社会情報学』3(3), pp.61-86、2015年
  29. 阿辺川武、高野明彦「出版図書目録を用いた図書館の所蔵調査」『日本図書館情報学会研究大会発表論文集』63, pp.21-24、2015年
  30. 須田山強真、阿辺川武、高野明彦「意味の構成性に基づく句の文脈を考慮したベクトル空間モデル(言語理解とコミュニケーション)」『電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報』115(347), pp.99-107、2015年12月
  31. 矢野桂司、今村聡、高野明彦、阿辺川武「『平安京オーバーレイマップ』の開発と拡張に関する一考察(河角龍典教授追悼記念論集)」『立命館文学 = The journal of cultural sciences』(649), pp.196-185、2017年1月
  32. Norihiko Uda, Chieko Mizoue, Saori Donkai, Saki Ishimura. “Information Seeking Behaviors of Older Adults in Public Libraries”. Proceedings of the 8th International Conference on Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2017)/pp.395-406、2017年
  33. 溝上智恵子「短大生調査を利用した教育改善の手法。」『教育制度学研究』(24)、pp.153-154、2017年11月
  34. 溝上智恵子「カナダの道德教育政策-オンタリオ州を事例として」『カナダ教育研究』(15)、pp.17-33、2017年9月
  35. 溝上智恵子「米国の事例:学習経験の単位化。」『IDE 現代の高等教育』(590)、pp.50-55、2017年5月
  36. Saori Donkai, Chieko Mizoue, Hitomi Nakamura. “Humanoid robots and the new library services: Investigation of age differences on affinity toward humanoid robots.” Proceedings of the 7th International Conference on Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2016)/pp.366-379、2016年
  37. 溝上智恵子、森利枝「アメリカの高等教育における職業教育と学位. 高等教育における職業教育と学位:アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・中国・韓国・日本の比較研究報告」『学位と大学』

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

(2)、pp.19-34、2016年8月

38. Hideo Joho, Masaki Matsubara, Norihiko Uda, Saori Donkai, Chieko Mizoue “Lifeloggging by Senior Citizens in a Highly Ageing Society: A Pilot Study. Proceedings of the Information Research and Learning with Lifeloggging Devices” An Interactive and Engagement Session at iConference 2016 (IRLLD 2016). pp.9-12、2016年

39. Saori Donkai, Chieko Mizoue, Norihiko Uda. “Visualizing information seeking behaviors of older adults at public libraries: Reflective learning and information literacy.” Proceedings of the 6th International Conference on Asia-Pacific Library and Information Education and Practice. pp. 342-350、2015年

40. 溝上智恵子「第2次世界大戦下における日系人の高校教育」『カナダ教育研究』(13) pp. 43-63、2015年8月

41. 溝上智恵子「ラーニング・コモンズにおける学修支援の深化をめざして。」『大学の図書』s 34(8) pp. 176-178、2015年8月

42. 松澤慶信「舞踊におけるロマン的なものの美学的考察」(査読有)『日本女子体育大学紀要』第47巻 pp.77-83 2017年3月

### <図書>

1. 中島夏子、溝上智恵子『カナダBC州における学士課程教育-UBC・SFU・UVicの3事例. グローバル社会における高度教養教育を求めて』東北大学出版会, pp. 237-248、2018年

2. 溝上智恵子『学習支援と教養の形成. グローバル社会における高度教養教育を求めて』, 東北大学出版会, pp. 327-338、2018年

3. 溝上智恵子『マニトバ学校問題-カナダ多文化教育の原点. カナダの歴史を知るための50章』, 明石書店, pp. 130-135、2017年

4. 溝上智恵子『サード・エイジ: 超高齢社会を支える高齢者と図書館. 超高齢社会と図書館-生きがいつくりから認知症支援まで』, 国立国会図書館. pp. 56-69、2017年

5. 溝上智恵子、毛利るみこ『第8章 国が考える図書館政策. 図書館情報学を学ぶ人のために』世界思想社, pp. 77-87、2017年

6. 松澤慶信「第3部偏在するダンス—誰もが踊る? 舞踊教育と教育舞踊、そしてコンテンポラリーダンスのテクニクに関して」『早稲田大学演劇博物館 Who Dance?振り付けのアクチュアリティ』pp.158-165 2015年12月\*1

### <学会発表>

1. Kumi OYAMA, Bin UMINO, Rui OZAKI “Characteristic Features of Japanese Ballet Education: A national survey and comparison with UK” International Symposium on Performance Science 2015 2015年9月3日 \*4

2. 小山久美「日本における障害者のためのバレエ指導の実施に向けて: ポストン・バレエ団アダプティブ・ダンスの指導方策及び体制分析より」音楽芸術マネジメント、2016年12月

3. 溝上智恵子「学修成果の可視化を考える-筑波大学の試み」日本教育制度学会第25回大会、2017年11月

4. 呑海沙織、溝上智恵子、顧雅威「日本の大学図書館における学生スタッフの役割の変遷」日本高等教育学会第20回大会、2017年5月.

5. 溝上智恵子「国際比較の観点から見た戦争博物館-イギリス、カナダ、オーストラリア」大東文化大学法学研究科講演会、2016年10月

6. 中島夏子、溝上智恵子「BC州における学士課程教育の現状: 3大学の事例」カナダ教育学会第47回研究会、2016年6月

7. 金子元久、森利枝、溝上智恵子「大学と職業教育」日本高等教育学会第19回大会、2016年6月

8. 松原正樹、上保秀夫、宇陀則彦、呑海沙織、溝上智恵子「高齢者の情報行動にかかるデータ収集と可視化」DEIM Forum 2016、2016年3月

9. Chieko Mizoue “Catholic Support and Response to Japanese Education in Canada during World War II.” 82nd Annual Conference of the Canadian Catholic Historical Association、2015年6

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

月

10. 溝上智恵子、海沙織「ラーニング・コモンズの新たな展開-カナダの事例から」日本高等教育学会第18回大会、2015年6月
11. 溝上智恵子、海沙織「イギリスの公共図書館における認知症支援サービス」. 2015年度日本図書館情報学会春季研究集会、2015年5月

### <研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

<既に実施しているもの>

#### 【パンフレット】

##### 『バレエ教育に関する全国調査2016』(平成29年度に配布済)\*4

研究成果をまとめたパンフレットを作製し、バレエ教育機関、研究者や関係者等、約1500件に配布した。内容は日本におけるバレエ学習者数、バレエ教室数等である。

##### 『バレエセンター機能の構築』(平成30年5月に配布済)\*1-5

平成29年度末までの研究成果等を全8ページのパンフレットとしてまとめ、約1600件のバレエ教育機関や関係者、メディア等に送付した。パンフレットの内容は研究概要、「(1)バレエ情報・資料整理グループ」、「(2)デジタルアーカイヴグループ」の研究成果発表の報告と、「(3)バレエ環境調査グループ」の調査報告である。また関係者にも今後、適宜、配布する予定である。

#### 【インターネット】

##### 『バレエ教育に関する全国調査2016』(平成29年度に公開)\*4

パンフレットをPDF化し、バレエ研究所ウェブサイトにて公開している。

<http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/albums/abm.php?f=abm00004246.pdf&n=%E3%80%8E%E3%83%90%E3%83%AC%E3%82%A8%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E5%85%A8%E5%9B%BD%E8%AA%BF%E6%9F%BB2016%E3%80%8F%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C.pdf>

##### 『バレエ情報センター機能の構築』事業紹介パンフレット(平成30年度に公開)\*1-5

パンフレットをPDF化し、バレエ研究所ウェブサイトにて公開している。

[http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/albums/abm.php?f=abm00005412.pdf&n=BalletResearchCenter\\_Report2018.pdf](http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/albums/abm.php?f=abm00005412.pdf&n=BalletResearchCenter_Report2018.pdf)

##### 昭和音楽大学バレエ研究所公式 Twitter (@ShowaBRC)\*1-5

バレエ研究所公式 Twitter アカウントを通じて、随時、研究成果を紹介している。

#### 【展示開催】

##### 企画展『日本におけるバランシン』(日時:平成29年8月5日、6日、場所:新国立劇場オペラパレス、来場者数:約1000人)\*3

日本におけるバランシン作品の上演史に着目し、企画展を新国立劇場オペラハウスで開催した。来場者数はのべ約1000人である。

<これから実施する予定のもの>

#### 【展示開催】

企画展の開催を予定している。ひとつの作品、または振付家を取り上げ、アーカイヴから資料を集め、企画展を行う。平成30年度に開催する予定である。

#### 【教育利用】

また昭和音楽大学バレエアーカイヴ(仮名)の試験的公開の一環として、昭和音楽大学学内での公開を30年度内に行う。昭和音楽大学学部バレエコース講義内(『バレエ学概論』)で、日本バレエ史を扱う際に、バレエアーカイヴを実際に使用する。

### 14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付してください。

<新聞報道等>

“栄光へ導いた日本バレエ”『読売新聞』2016年6月14日 \*4

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

<p>“バレエの若手 世界に舞う”『朝日新聞』2016年11月28日 *4</p> <p>“熱狂 2017 ローザンヌ 人材流出の危機も”『読売新聞』2017年1月26日 *4</p> <p>“頭で理解したことを身体で表現する・「バレエはコミュニケーション」”『こどもまなび☆ラボ』2018年2月28日 *4</p> <p>“バレエ鑑賞のススメ”『読売中高生新聞』2018年3月16日 *4*5</p> <p>“県内バレエ事情 少子化などで厳しい経営”『佐賀新聞』2018年5月24日 *4</p> <p>&lt;TV等&gt;</p> <p>ぼくらはマンガで強くなった「夢をカタチに！究極の肉体表現“バレエ”」NHKBS1 2017年1月20日 *4</p> <p>「Nスタ モスクワバレエコンクール」TBS 2017年6月21日 *4</p> <p>「ごごナマ」バレエ界の世界的スター マニユエル・ルグリさんが生出演 NHK総合 2018年5月7日 *4</p>
---

#### 15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<p>&lt;「選定時」に付された留意事項&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;「選定時」に付された留意事項への対応&gt;</p>
--

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

## 16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他( )	
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	8,554	4,586	3,968				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,954	6,923	5,031				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,129	7,944	3,185				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	31,637	19,453	12,184	0	0	0	
総計	31,637	19,453	12,184	0	0	0		

## 17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
バレエ研究所(昭和音楽大学北校舎内)	—	49m <sup>2</sup>	1	13	—	—	—

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m<sup>2</sup>

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	761	消耗品購入	761
光熱水費	0		0
通信運搬費	65	資料運搬、他	65
印刷製本費	91	専用コピー機使用料、他	91
旅費交通費	8	打合せ・出張等交通費	8
報酬・委託料	4,035	パレエアーカイブ、外部研究員報酬	4,035
(賃借料)	80	ホスティングサービス利用	80
(出版物費)	220	調査研究参考資料購入	220
計	5,260		5,260
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,294	アルバイト人件費	3,294
			時給950円 年間時間数1,804時間 時給940円 年間時間数1,264時間 実人数 2人
教育研究経費支出	0		
計	3,294		3,294
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号	141016
プロジェクト番号	S1591007

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,047	消耗品購入	1,047
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	1,335	資料運搬、他	1,335
印 刷 製 本 費	840	専用コピー機使用料、全 国調査関連印刷費	840
旅 費 交 通 費	10	打合せ・出張等交通費	10
報 酬 ・ 委 託 料	745	調査関連委託費、外部研 究員報酬	745
(賃 借 料)	119	ホスティングサービス利用	119
(出 版 物 費)	869	調査研究参考資料購入	869
(広 告 費)	81	全国調査関係告知広告費	81
計	5,046		5,046
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	4,615	アルバイト人件費	4,615
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	4,615		4,615
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	2,293		2,293
図 書	0		
計	2,293		2,293
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

